# 音楽の都、ウィーンの短い夏

近内　亜紀子（ＩＡＥＡ原子力安全保安局輸送安全室所属）

暑い夏、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

ヨーロッパの夏は、よく言われることですが、日本のような湿気がなく快適で過ごしやすいです。空気が乾いているせいか、日差しが強く感じられます。赴任から５カ月が経ち生活にも慣れてきたので、今回はウィーンについて紹介したいと思います。

ウィーンといえば、音楽の都・芸術の都と呼ばれたりもしますが、音楽もオペラも美術館等も確かに身近に感じます。生演奏のある飲食店が多いですし、オペラ座・劇場の類が多く、立見であれば2ユーロからという気軽さで鑑賞できるので、私もよく利用しています。夏本番の7、８月には市内の音楽施設の多くは休館となるのですが、その代わりオペラやコンサートなどが湖上や宮殿庭園を借りて野外で行われます。先日、シェーンブルン宮殿にて毎年開催されるウィーン・フィルのコンサートに職場友人と仕事帰りに行ってみましたが、ウィーンでこんなに人を見たのは初めてというくらい大勢の人が思い思いの楽しみ方をしていました。スピーカーを通したオーケストラ演奏に当初あまり期待をしていなかったのですが、開放的な空間と派手な演出で思いのほか楽しかったです。

内陸に位置するウィーンには夏に必須（?）の海はありませんが、ヨハン・シュトラウスⅡ世が美しく青きドナウと讃えたドナウ川があり、市中心部にも運河が流れてきています。夏になると運河や本流の岸には特設のカフェやレストランができて、昼夜を問わず賑わっています。Alte Donau という現在では湖になっている旧ドナウ川ではセーリングも盛んで、私も職場のヨット部に入会し、ディンギーに挑戦しています。Alte Donau は職場の隣駅なので仕事の帰りに参加していますが、夏の間には少し離れた Neusiedler 湖などのクルーズにも参加したいなと思っています。一方、ウィーン市の北方面には丘陵地帯が広がり、その傾斜には葡萄畑が広がっています。葡萄農家が自分達で作ったワインをお客に提供してレストランの営業を許された店はホイリゲと呼ばれ、これは 200 年以上も前に

ザルツブルクの山々と

出来た制度ですが、晴れた日に葡萄畑を眺めながらテラスで賑やかに飲むワインは今でも市民の楽しみになっています。秋にはワイン製造過程で発酵中のお酒（シュトゥルム）も提供されるそうで、今から楽しみにしています。

オーストリアの地形を見ると、ほとんどがアルプスに続く山岳地帯ですが、東端のウィーンの周りは比較的平坦で、ハンガリー方面には平原が広がっています。そこには風力発電群が立ち並んでいて旅行で通るたびに発電風車が増設中ですが、それらが担う電力はまだ一部で、国内生産電力の主要は水力発電です。水力発電にはアルプスの雪解け水やドナウ川の高低差が利用されているとのこと。ウィーン市内の水道水もアルプスの美味しい水です。なお、ウィーンには私の赴任している原子力の平和利用を目的とした国際機関ＩＡＥＡが設置されていますが、オーストリア自身には原子力発電所はありません。

夏時間はすでに3月末から始まっていましたが、最近はだいぶ夏らしくなり、夜の9時頃になってもまだ明るいです。冬の間はすぐ暗くなり、あまり出歩かず家で歴史小説を読む機会が多かったのですが、そのおかげで出歩くようになった今、街の銅像や建物にも親近感が沸きます。ヨーロッパでは寒くて暗い冬が長いぶん、短い夏を精一杯楽しむようなので、私も短い夏をいろいろ発見しながら満喫したいなと思っています。